

1 概要

仙台医療圏の病院に係る仙台市との協議について、3回目の協議を行ったもの。

2 日時

令和6年5月1日（水）午後3時から午後5時15分まで

3 場所

宮城県行政庁舎9階 第一会議室

4 出席者

(1) 仙台市

郷湖健康福祉局長、川口理事、松本保健衛生部長、佐々木医療政策課長、佐藤精神保健福祉担当課長、武藤救急部長、佐々木救急課長

(2) 宮城県

志賀保健福祉部長、大森副部長、小林医療政策課長、鈴木県立病院再編室長、齋藤地域医療連携担当課長

5 協議内容

事前に仙台市から質問があった以下の項目について、県が資料に基づいて説明した後、意見交換を行った。

（主な意見交換の内容は次ページ）

【新規】

周産期医療、災害医療、がん医療、再編に伴う現病院周辺地域への影響、医療需要・必要病床数

【第2回からの継続】

救急医療、精神医療

6 今後の進め方

今回県が提示した資料等について、仙台市で検討の上、次回以降の協議を行うもの（日程は調整中）。

主な意見交換の内容

協議項目	仙台市からの意見・質問	県の回答
周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> 仙台市内は移転しても何とかできるという見通しか 	<ul style="list-style-type: none"> 新病院が名取市に立地した際には、仙台市太白区や近隣の仙台市民も利用可能であり、総合周産期母子医療センターという位置付けを考えれば、大きな問題にはならないと考える
災害医療	<ul style="list-style-type: none"> 県から提示された被害想定を見ると、仙台医療圏北部は災害拠点病院がないが、被害も少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 今回提示した想定は津波被害の場合の例であるため沿岸部の死者数が多いが、災害は時間、場所を問わず起こるものであり、エリア的にバランスの取れた災害拠点病院の配置が重要だと考える
がん医療	<ul style="list-style-type: none"> (他の病院との) 役割分担については、今後の話なのか 	<ul style="list-style-type: none"> がん医療について統合する新病院の核となる医療機能であるのは間違いないが、東北大学病院等とも相談しながら、役割分担や連携について、協議することになる
再編に伴う現病院周辺地域への影響	<ul style="list-style-type: none"> 今回の再編は県が提案したものであり、重点支援区域の条件もあることから、地域の理解を得ることについて県が主体的に対応すべき 	<ul style="list-style-type: none"> 現在病院を利用している患者については、病院側が中心となって対応するものと考えており、県もできる限りサポートしていく 移転元の地域で反対の声が大きいことは当然であり、丁寧に対応したい
医療需要・必要病床数	<ul style="list-style-type: none"> 回復期病床の不足に対する対策はどうか 	<ul style="list-style-type: none"> まずは既存の医療機関に対して、急性期から回復期への転換を促すなどの取組を進める また、今後、地域医療構想の見直しがあり、それに伴い必要病床数がどのくらいになるかによって対応策も変わる
救急医療	<ul style="list-style-type: none"> 今回のシミュレーションはある程度これまでの意見交換を反映していただいたと考える 一方で、現場からすると実態とかい離する部分もある 	<ul style="list-style-type: none"> 今回のシミュレーションは、仙台市からの要請を踏まえて、議論のたたき台として作成したものである 一定の条件の基で機械的に算定していることから、シミュレーションの条件などについて、引き続き意見交換したい
精神医療	<ul style="list-style-type: none"> 県が提案するサテライトの規模や身体合併症への対応について懸念がある 	<ul style="list-style-type: none"> 精神医療センター職員との意見交換で懸念点を指摘されており、県として解決案を検討している サテライト案を進める過程において、関係者等の様々な意見を聴く機会も出てくる